

技術概要書（様式）

※別紙2

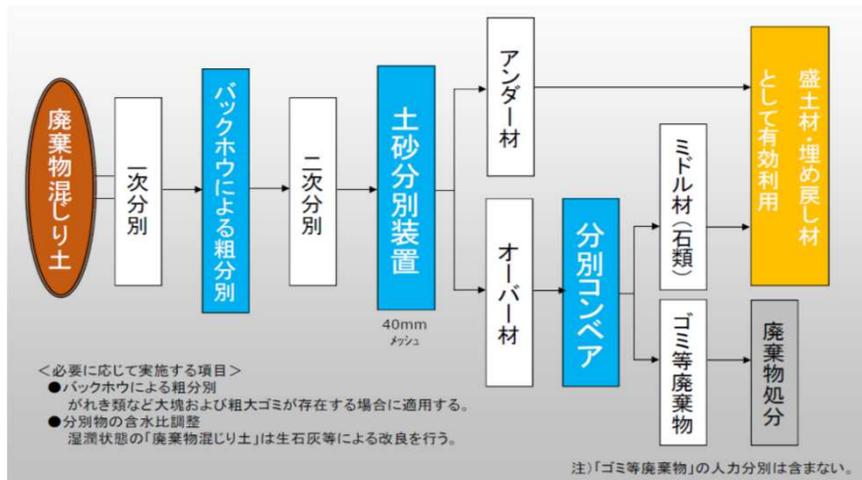
技術分類	安全・防災 維持管理 環境 <b>コスト</b> ICT 品質 <b>（該当分類に○を付記）</b>		
技術名称	「すきとり表土」分別工法 （廃棄物混じり土への対応）	担当部署	土質改良事業部
NETIS登録番号	KK-120039-VE	担当者	南 修
社名等	株式会社 オクノコトー	電話番号	072-675-0388
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>現状、土木工等で発生する「すきとり表土」並びに建設工事で遭遇する「廃棄物混じり土」は、最終処分場（廃棄物）へ運び込まれている。 そこで、「資源循環型社会」の構築の観点から、「すきとり表土」・「廃棄物混じり土」を「土砂」と「草根茎等」「廃棄物類」に分け「土砂」は土材料として再利用可能なものにして、廃棄物等処分の減量化に取り組んだ技術である。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>（廃棄物混じり土への対応） 本技術は、建設工事で遭遇する「廃棄物混じり土」について、廃棄物・石類・土砂に分別し廃棄物を減量化する工法です。 「廃棄物混じり土」は廃棄物等が付着した土砂（土塊）であるため、本装置はその土塊を「解砕」して廃棄物と土砂に効率よく「分別」する仕組みである。 本装置の原理は、回転するドラム内を「解砕エリア」と「分別エリア」に区分し、「解砕エリア」では回転ドラムとは別駆動の解砕羽根による打撃で土塊を解砕する。「分別エリア」では、ふるい網により土砂と廃棄物等に分別する。 土砂分別システムの構成は、土砂ホッパー、投入コンベア、表土分別装置、土砂排出コンベア、廃棄物コンベア、分別コンベアである。</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>①分別後土砂は、盛土材料や埋め戻し材料等として再利用が可能となる。 【土砂の再利用率】 弊社システム 80～90% 振動スクリーン 40～70%</p> <p>②分別により廃棄物等の処分量が大きく減少し、処分費が削減できる。</p> <p>③処分量が減量化することにより、処分に要する搬送車両が少なくなり、CO2削減にも寄与する。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>①自然条件：砂質土系土砂、粘性土系土砂 ②現場条件：ヤード必要面積 プラント設置…400m<sup>2</sup>、作業ヤード：800m<sup>2</sup> （補助機械として、バックホウ・発電機・コンベアが必要） ③適用箇所 ・仮置きされている表土、廃棄物混じり土 ・河川工事、道路工事における掘削工事 ・法面表土への活用 ・公園整備事業としての活用</p> <p>5. 活用実績</p> <p>国の機関 39 件（九州 5件、九州以外 34件） 自治体 2 件（九州 0件、九州以外 2件） 民間 0 件（九州 0件、九州以外 0件）</p>		

6. 写真・図・表

土砂分別工 施工事例(廃棄物混じり土の分別)



土砂分別システム 全景



土砂分別フロー



分別後土砂



分別後ゴミ等廃棄物